



環境ニュース

2012 年 7 月 25 日

1 ページ

EU 排出量取引制度(ETS)の改革

ブランドとは評価のシンボルです。ETS は気候に関する欧州の大胆な取り組みのシンボルですが、まだ強いブランドには育っていません。それには二つの主だった理由があります。その制度の実施は非常に複雑であることと、炭素の価格が現在非常に安いので、CO₂の大量出者にとって、その排出を劇的に減らすことのメリットがほとんどないということです。EU の ETS は、炭素の価格がトン当たり 30 ユーロであることを前提としていますが、実際の炭素の価格は 10 ユーロまたはそれ以下にまで下がっています(2008 年は 20 ユーロ、先週は 7 ユーロ)。ETS は現在 18 億トンの過剰割り当てを抱えていると見積もられますが、この過剰割り当てが価格をさらに下げるでしょう。

欧州委員会は現在、2013 年からの第三段階の割り当ての競売に関する改革を提案しています。委員会は基本的には割り当てを市場から削除します(ETS の専門用語では、これは「バックローディング」と呼ばれます)。現在炭素の割り当てに関して 4 億、9 億、12 億トンの三つの可能性が示唆されています。バックロードは 2013 年に始まる ETS の競売プロセスの次の段階で導入され、今後厳格な法律が提案されるでしょう。専門家は 8 億トンの割り当てを削除すると、炭素の価格をトンあたり約 12 ユーロまで上昇させると予想しています。

第三段階(2013 - 2020)のためのその他の変更は、(1) 加盟国レベルでの上限の設定から、単一 EU 全体での部門別の上限設定への変更、(2)ほとんど自由な割り当て(現在)から、割り当ての半分以上を競売に出すことへの変更、そして(3)さらに大胆な EU 全体のベンチマークに基づき自由割り当て規則を統一することです。

詳細はhttp://ec.europa.eu/clima/policies/ets/auctioning/third/documentation_en.htmに掲載されています。

「大気品質を保つということは、環境的な目標であるだけでなく、経済的な機会でもあります。クリーン技術と革新に潜む経済的な機会を強調することについて、EU の大気政策は必ずしも成功しているとは言えません。」

ヤネス・ポトチュニク、欧州委員会環境担当委員

環境 NGO は第二次バローゾを評価せず

第二次バローゾは現在その任期の中間時期にありますが、主要な環境 NGO は、環境に関する第二次バローゾの実績は現在のところ貧弱であると評価しています。環境 NGO は、欧州において長期にわたって持続可能な繁栄をもたらす競争で、欧州委員会は遅れをとっていると言っています。また環境 NGO は、第一次バローゾ委員会の方が、環境の保護にもっと積極的だったと結論付けています。報告書は、環境に影響を与える 9 つの政策分野での進捗を評価し、委員会の実績を評価しています。それぞれの政策分野は、委員会が行っている環境に対する大胆な取り組みと、環境問題の範囲という二つの要素に基づいて 10 段階で評価されます。スマートで、包括的、かつ持続可能な経済を実現する必要があると強調しているにもかかわらず、委員会は現在までのところ、環境政策の潜在力によって雇用を創出すること、人の健康を改善すること、およびエネルギーと資源の使用を減らすことに成功していません。委員会は、クリーンなエネルギーと輸送、および化石燃料に対する補助金の打ち切りがもたらす経済的効果は認めています、そのエネルギー政策がぶれているために、欧州において再生可能で効率的なエネルギーに基づく現代のエネルギー・システムを実現し、高価なエネルギーの輸入と温室効果ガスによる汚染から解放するための明確な対策を打ち出せずにいます。当初の言質に添っていないために、そのエネルギー政策は 4.5/10 という低い評価にとどまっています。

詳細はwww.green10.org/docs/2012commissionreview.pdfに掲載しています。